

## 1980 年度学会賞受賞作品・授賞理由

---

### ◆石川賞「神戸ポートアイランド」

宮崎 辰雄(神戸市 代表 神戸市長)

〈選考理由〉

山を削って、海面を埋め立て、双方に新しい都市空間を創造する一環として、「神戸ポートアイランド」が生れた。その特色は次の通りである。

1. 港湾機能の近代化と、都心機能をもつ新都市空間の創造をめざし、この空間に高次都市機能、業務、住居地区、及び公園緑地軸、環境景観形成も充分配慮していること。
2. 新・旧市街地を結ぶものとして、新交通システムをわが国ではじめて導入し、定時性、無人化運転、低公害等の推進により、今後の都市交通に先人的な役割を果たしたこと。
3. 本事業と連繋して、都心部の更新と後背地の新開発等を総合的に実施したこと。
4. 世界最大級の土量と各種公害の回避をはかった土砂運搬方式、圧密埋立方式により、昭和 39 年以來 16 年余にわたる大規模な事業を計画どおり完成したこと。

以上、本事業は、20 世紀におけるユニーク、かつ超大型の都市づくりであり、21 世紀の文化財となりうる所産として誇れるものである。よってここに石川賞を授与するものである。

### ◆論文奨励賞「都市周辺市街化地域における市街地形態の計画的規制手法に関する研究」

池田 孝之(琉球大学教養部助教授)

#### 《選考理由》

市街地形態の計画的規制手法を扱った本論文は、5部から構成されている。第1部は、建築線・空地地区・緑地地域・市街化区域と開発許可などのいままでの主要制度の成立過程と論理を扱ったものであり、第2部は、最近の非計画的・拡散的市街化の実態と問題点を、第3部はかつて存在した建築線制度の指定状況とそれが街区形成をいかに誘導しえたかを、第4部は建築敷地・街区内空地制限手法の規制効果を論じており、第5部は計画的規制手法のあり方に関する提言である。

なかでも、建築線制度を論じた部分は、文献研究の面でも(第1部)、東京都区部を対象として行った、指定された建築線のパターンとそれにもとづく市街化のプロセスを対応させることで規制効果を論じた実証的研究面でも(第3部)、すぐれた成果をあげているものと考えられる。又、昭和40年代中頃からの地区計画の必要性に対する認識の高まりの中で、一昨年地区計画制度が発足し、現在その運用が都市計画の課題のひとつとなっている状況を考えるとき、本論文は、テーマとしても極めて今日的意義を有しているものと判断し、今後の研究の展開を期待して、論文奨励賞としてふさわしいものであると考える。

#### ◆論文奨励賞「明治期における都市計画の歴史的研究」

藤森 照信(東京大学生産技術研究所研究員)

#### 《選考理由》

本論文は、明治時代における都市計画史を研究するため、東京について、(1)銀座煉瓦街計画、(2)東京不燃化計画、(3)市区改正計画、(4)官庁集中計画の4つの課題を取りあげ、それぞれの計画の発案から、多くの人達の論議、提案の内容、その経過および結果について明らかにするとともに、それらの計画が意味するところを述べたものである。これらの計画については、従来から都市計画史において概述され、多くの人が基礎知識として一応は知っているところのものではあるが、本論文は多くの根源的資料に基づいて、いくつかの新しい事実を提示しつつ、論理的、体系的にまとめている点、又、特に従来余り検討されていなかった明治10年代東京不燃化計画の内容を具体的に明示した点において優れたものである。

我が国の都市計画研究を進めていくに当って、先人の行った過去の計画の実情とその意味を明らかにすることは重要であり、又、都市の開発と保存との調和をはかっている場合に適切な評価が下せるようにするためにも、都市計画史の研究は、益々必要とされるべきであり、今後一層の研究発展を期待して、論文奨励賞としてふさわしいものであると考える。